

令和2年3月25日

在校生のみなさんへ

神奈川県立湘南高等学校長 稲垣 一郎

### 令和元年度全日制終了に際して

令和元年度も終わります。今年度は、元号が変わった年でもあります。年度の最後に世界的に大きな課題を抱える年になりました。課題は、未だ解決の端緒すら見えていない状況です。休校の間によい本に出会えましたか。

本来は、終了式で現2年生に各行事の中心として動く使命のバトンが渡されたと意識の鼓舞をし、現1年生に湘南生になれたのかと確認をするのが毎年の恒例です。しかし、今年は、それを皆さんに直接伝えることができません。

こんな状況下ですから明日何が起きるのかもわからないのですが、だからこそ、湘南生として広角レンズで危機管理を前提に据えながら、行事の運営をこれまでの踏襲ではなく、再構築する必要があります。専門家会議は、オーバーシュートを起こさせないためには、「密閉空間」「密集場所」「密接場面」の3つの要素を作らせないということを挙げています。湘南の行事で何がどのようにできるのか、強行突破は、有り得ないとすればどうしていくべきなのか。そこには、生徒一人ひとりの取組みがあり、強い思いもある中で、どうすることが最善であるのか。

つい先日、津久井やまゆり園で惨劇を起こした被疑者の裁判の判決が出ました。彼の論理は、言うまでもなく、現代の日本社会においては、まったく意味をなさないものであり、その意図することも人として許すべからざるものです。ノーマライゼーションの考え方からは、180度乖離した思考です。既存の社会システムにおいて、彼の論理を完全否定するように教育されてきた私たちですから、それについての善悪の判断を容易に行い、その思考を最悪なものとしてとらえることでしょう。

以前にも皆さんに話したことがある社会心理学者の小坂井俊晶さんが最近インターネット配信で講演をしてくださった時にこんなことを話されています。「イノベーションとは、既存システムの外にある、既存システムの中ではノイズや本来悪として拒否、排除されてしまうものに偶然出会うことで起きるものであり、結果、既存システムをその偶然との出会いにより壊すことになる。」といい、「現在の「学校」という組織は、既存システム外の思考をしようとする行為をシステム内に取り込もうとするものであるため、無力である。」とも述べています。また、つい先日の卒業式でも話しましたが、安宅和人（アタカカズト）というデータサイエンティストは、その著作「シン・ニホン」で日本

の未来を作っていく人は、異質の思考をする人であり、同質化を好む人ではないとも述べています。両者ともにこれからの未来を生きていくには、既存の社会フレームの中で思考して生きていくのではなく、「偶然」何かに出会い、思考を既存フレーム外にしていくことが重要だと言います。それが異質であることを私たちは認定し、その思考によって作られていく物事を私たちが排除しないことが非常に重要になっていくでしょう。これまでの教育は、既存フレームに同調する人材育成だけをしてきたという反省がそこにはあります。

津久井やまゆり園で起きたことを悲劇だということは簡単です。既存フレーム内での思考は、しかし、そこで終わりです。私たちは、ここでいう異質や偶然という言葉が指し示す意味をしっかりと受け止めて、そこから出発して何をするのか、何ができるのかを既存フレームの外で発想することがきっと必要です。今のこの状況下だからこそ、この考え方はきっと重要です。

今日はここまでにしておきます。

離・退任される先生方から直接の言葉もいただけないので、これまでお世話になった先生方の離退任に際しての言葉を皆さんにはお配りしました。しっかりと読んでください。

4月にまたお目にかかりましょう。

※ 文中の小坂井敏晶先生のご厚意で、今月中は配信録画を以下のURLで自由に見てくださいとのことでしたので、是非見てください。90分程度ですが、素晴らしくよい講演です。これも勉強。

但し、湘南高校関係者だけに許してもらったことですので、拡散はしないようお願いします。

<https://youtu.be/7j1qCjHi8Yo>

なお、感想は、Facebookで「「教育という虚構」小坂井俊晶さんオンライン講演会」というイベントページに是非投稿してください。ちょっとそれは恥ずかしいという場合は、校長に送ってください。そーつと小坂井先生にお渡しします。匿名はなしでお願いします。

校長の業務メールアドレス

[inagaki-tj5@gl.pen-kanagawa.ed.jp](mailto:inagaki-tj5@gl.pen-kanagawa.ed.jp)